

海外運用の先駆者達 ~ 20 世紀に海外でアマチュア無線を運用した日本人達~

その 95 今回の記事は 1994 年のオセアニア前半 1994 年 (6)

「あの人は今 (第 20 回)」 JA1DCY 神山堅志郎氏

JA3AER 荒川泰蔵

■ 今回の記事は 1994 年のオセアニア前半

今回は 1994 年の 6 回目でオセアニアですが、この年もオセアニアでの運用は多く、CQ ゾーン別に、2 回に分けさせて頂き、今回はその前半で CQ ゾーンの 27 ~ 30 の国々です。尚、今月の「あの人は今 (第 20 回)」は、JA1DCY 神山堅志郎氏の紹介です。

■ 1994 年 (フィリピン JA1BRK/DU1, DU1ZV)

JA1BRK 米村太刀夫氏は、フィリピンで JA1BRK/DU1 の臨時免許を得て、毎年更新してきたと、最新の臨時免許状を添えて、アンケートを寄せてくれた (写真 1 の左)。「1989 年に PARA を通してアマチュア無線の申請を行った。提出書類は、1. 申請図面 (DU の局と同じ)。2. JA1BRK の局免許の英文翻訳と、1 アマの OP ライセンスの英文翻訳。3. 写真 2 枚。4. 在比日本大使館からの推薦状。等であった。以後毎年更新している。(1994 年 11 月記)」その後、米村太刀夫氏は現地で資格試験を受ける機会を得、それに合格して 2000 年には DU1ZV のコー

ルサインで免許を得ておられ、更に 2013 年には同コールサインで、日本人で初めての終身免許を取得されました。これらについては CQ 誌 2014 年 5 月号に手記を寄せておられます (写真 1 の右)。

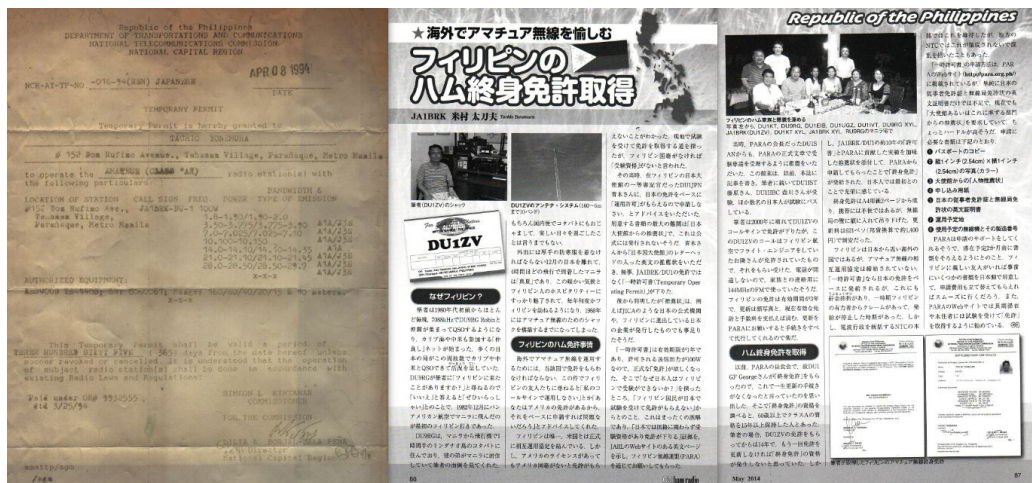


写真 1. (左)JA1BRK/DU1 米村太刀夫氏の臨時免許状 (熱感光紙で退色している) と、(右) DU1ZV の終身免許取得時の米村太刀夫氏の CQ 誌 (2014 年 5 月号) への投稿記事。

■ 1994 年 (北マリアナ KHON, KK6WW/KHO, KHO/JA1CMD)

JA6CNL 古海邦彦氏は、北マリアナ諸島のサイパン島から KHON で運用したと、CQ 誌編集部を通じてアンケートで寄せてくれた (写真 2)。「ライセンスのフランチャイズが SAIPAN である事、私の住んでいる福岡から一番近い "アメリカ" である事から、今後も度々出かけたと思っています。今回の運用もアパマンハム同様に HOTEL のベランダから 3.5 フルサイズ ZEPP, 7/21 ZEPP, 14 自作 VERTICAL で QRV しました。QRN がひどくローバンドで懸命にコールしてくれる EU や EC に充分サービスできず残念でした。3.5 で QRV していると多くの局に 1.9 への QSY を依頼されました。今回は 3.5 ZEPP のケーブルに予備の同軸を付け加えてロングワイヤーとし、長さをかせぎましたが、次回は本格的な ANT が張ればと思っています。小規模 PED の悲しさで、いつもリニアなしのペアフト運用を余儀なくされておりますが、その内軽量リニアを入手したいと思っています。夢は KHON のコールでオーナーロール入りですが、まずは DXCC の完成からと思っています。(1995 年 2 月記)」

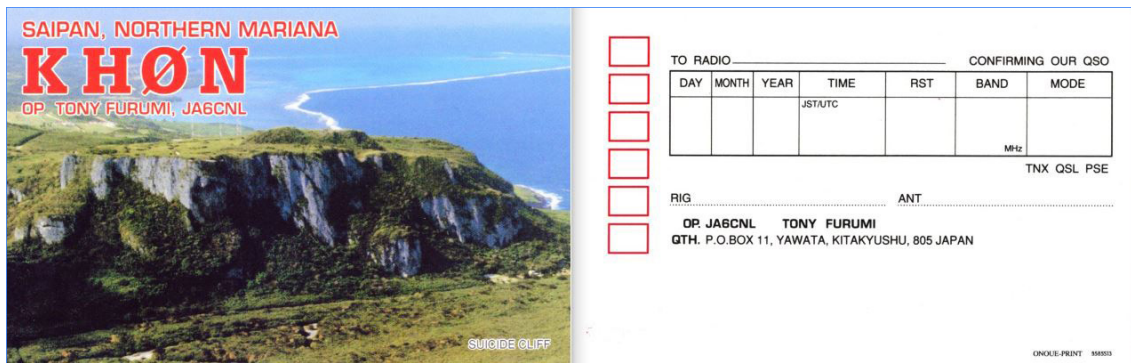


写真2. KH0N 古海邦彦氏の QSL カードの表と裏。

JA6EGL 三宅正司氏は、クラブのメンバーと共に、北マリアナ諸島のサイパン島から、KK6WW/KH0 で運用したと、アンケートを寄せてくれた(写真3)。「九州・福岡のパシフィック アイランズ ラジオクラブの4人は、1994年9月10日-14日の5日間、太平洋の楽園、北マリアナ連邦サイパン島北端サンロケ地区にある、マリアナリゾート ホテルより 3.5-430MHz(衛星通信含む) オールバンド、CW, SSB, FM で運用を行いました。ホテルはコーテージになっていて、裏庭が広いのでアンテナは楽に張れました。参加メンバーは団長：KH2GR/JF6BCC JF6BCC 今

石氏、副団
長：KR4NV/
JA6CNL 古海
氏、JM6VOV
横井氏、
KK6WW/
JA6EGL 三宅
の4名でし
た。(1995年
4月記)」

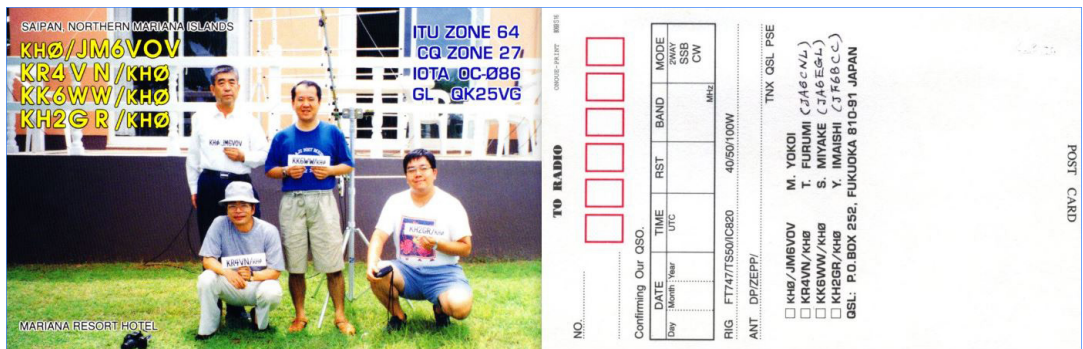


写真3. KK6WW/KH0 三宅正司氏とその同行者の共用 QSL カードの表と裏。

JA1CMD 宮盛和氏は、米国駐在中の1994年に、北マリアナ諸島のサイパン島を2度訪れ、相互運用協定によるKH0/JA1CMDのコールサインで運用した旨、アンケートを寄せてくれた(写真4)。「1994年1月にはサイパンのホテルからG5RVアンテナ、TENTEC SCOUT-555、35Wで、3.5、7MHz、CWを運用、4月にはやはりホテルからWINDOMとDIPOLEアンテナ、Kenwood TS-50、50Wで、1.8-28MHz All Band、CW及びSSBを運用と、日本に出張の都度WeekendをSaipanで楽しんでおります。(アトランタにて1994年4月記)」。尚、この1月の運用については、月刊ファイブナイン誌1994年4月号に、「KH0・サイパンは珍！」軽装備

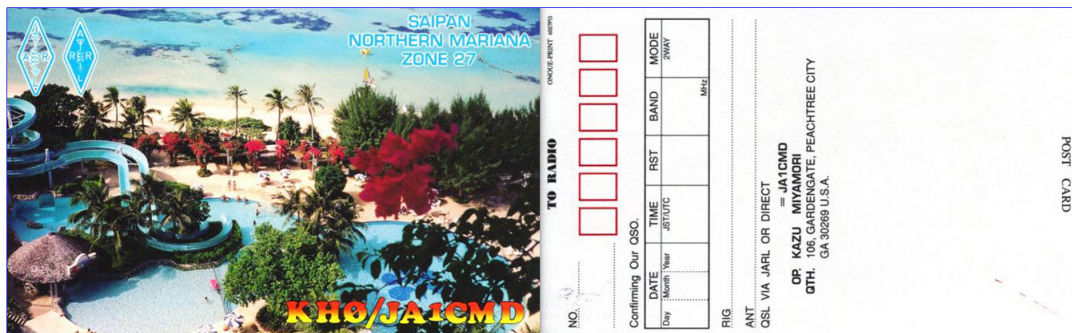


写真4. KH0/JA1CMD 宮盛和氏の QSL カードの表と裏。

運用」と題した2ページ見開きの記事を投稿しておられます(写真5)。

KH0・サイパンは珍! “軽装備”でのサイパン運用

W4/JA1CMD 宮盛 和

KH0・サイパン島はJAより遙か3時間、JA各局にとってはDXとは言えないほどのカントリーですが、しかしアメリカ東南部や南東部からとなると一変します。ジョージアからは、カリブの船とはラグチュー出来てもKH0は遙か遠いカントリーとなります。私も当地に来て以来まだQSOできておりません。JA局による積極的なDXサービスをお願い致します。昨年暮ニューヨーク・ニュージャージー地区のJANETメンバーとの忘年会の席上、商用で新年早々KH0へ行くと言いますと、是非、彼の地より波を出したらとの声があり、急遽リグを持参することになりました。現地事情はJGIOUT玉塚さんに教えて頂きました。

【準備】
 一般のホテルを利用してON AIRするため、小電力CW、X、ワイヤアンテナでOKのローバンドと決めて準備をスタート。クリスマス、正月をはきみ3週間しありませんので、身近で入手出来るものを厳選しました。用意した主な機材は次のとおりです。

トランシーバー: TENCE SCOUT 555. 2.3kg
 その他: 電源はスイッチング電源(11A) 1.4kg
 アンテナチューナー(MF 941) 1.4kg
 バンドキラー(BF-2) 1.4kg
 アンテナ(G5RV) 4.0kg

アンテナの支柱(下記のCWD SPECIAL 1本)結果として全てMEDS IN USAとなりました。スーツケース(サノソナイトの夫)の片側にスッポリと収まります。写真1は工具、アンテナ、4tを持参した点を示し、写真2はそれらをトランクに収めたところ。



1 持ち参した機材、工具、アンテナ、ケーブル等の全てが、中央長いのがアンテナ支柱になる箱組式のゴルフボール型。 (写真1)

アンテナ支柱はホの中よりゴルフボールを拾い出す神懸自在のアルミポール(全長5.2m/短縮1.2m)です。水辺の多い当地ジョージアでは私の必需品です。長さを調整出来るので21/14MHz等の垂直アンテナとしても利用出来ます。ポール拾い用の道具が先陣についていますので機内持ち込み時にも怪しませません。

アトランタからサイパンまでは太平洋ルートを取りW4-WO-1205-1202-KHF としました。飛行時間約18時間。現地よりのON AIRは1月9日夜からと設定し、8日早朝に当地を出発しましたが、あいにく東部を襲った大寒波のため大幅に予定は狂い、現地入りは1月10日の昼となりました。

【運用】
 宿泊先の日航ホテルの上杉支配人に事情を説明。チーフエンジニアの山田さんを紹介頂きました。山田さんの大奮闘により、屋上に「CWD SPECIAL」を3.5mの支柱としてG5RVを建設。屋上には積載物が殆どなく、柱を立てるのは一言労しました(写真3)。機器類も故障なくセット完了(写真4)。JAとWの友人-FATでON AIR準備完了の通知。昼間は本業がありますのでON AIRは夕食後とし、テスト電波は14MHzで発射。波が出ていることを確認。

仕事を終え、夕食前に先ず0708z 7MHzでZL 1 MHとQSO。夕食後は3.5と7MHzを交互に運用しました。G5RVが屋上で寝た型となり垂直部分で効果が発揮しないためか、それも35ワットという出力のためか、あまり強力ではない様子。初日(1月10日)は夜中の15zまで。翌日は夜中に切れ切れの運用。1月12日の朝、出勤前のJAの06時におハヨクを打ちQRZ、全部で424局とのQSOでした。

今回は、仕事の余暇のハンギングを趣旨とし、軽装備に徹した運用をしてみました。トランクのSCOUT 555も良く働き、イーストコーストにもKH0番をサービスすることが出来ましたが、3.5MHzは放送のため運用は難しいことも分かりました。



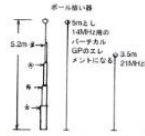
1 スーツケースに収容したところ。上左: 電源、上中: SCOUT 555、下左: 小物箱、右: G5RV (写真2)



1 ホテル日航サイパンのプールとプライベートビーチ。



1 ホテル日航サイパン、屋上は絶好のロケーション。



★タッピング止め



1 一層上にG5RVを設置中のチーフエンジニアの山田さん。(写真3)

弱い電波を拾って下さったJAの各局、色々ご協力頂いた JANET の N2Z、W2Z、在アトランタの W4/JA0BLS、TEN TEC の KA5XY、東京の JGIOUT、ホテルの上杉さん、山田さんに誌上を借りてお礼を申し上げます。3月下旬にもQRVします。その際にはよろしく、QSLはJARL経由でJA1ICMD、又はダイレクトで、Kazu Miyamoto, 106 Gardengate, Peachtree City, GA 30089, U.S.A. まで。



1 KH0/JA1CMDで運用中の筆者。KH0は東海岸ではJAから見たカリブにも低騒音するDXカントリーですよ。



1 1台目のリグ一式。右がGW電源、中がSCOUT 555(35W OUT)、右がMFJのアンテナチューナー、3つで5.1kg。(写真4)

写真5. KH0/JA1CMD 宮盛和氏の59誌(1994年4月号)への投稿記事。

1994年(パラオ KC6KE)

JS6BLS 遠藤孝治氏は、パラオのコロールで、KC6KEで運用しHFのSSBとCWで約200局とQSOしたと、CQ誌編集部を通じてアンケートで寄せてくれた(写真6)。「免許はV6同様、FCCのライセンスを基に申請し、JAに送ってもらった。但し、担当者がかかわるとどうなるか不明である。ホテルはニッコーパーオに泊まり、そこから運用したが、他のJAのOPはダウンタウンのニューコロールに泊まりQRVする方が多い。その方がロー

などのカードも使えるところが少ないので注意。銀行の両替レートも悪いので日本でドルを両替して持って行った方がよい。(1995年3月記)

KC6KE PALAU OC-009		<input type="checkbox"/> SWL Report	
		<input type="checkbox"/> Our QSO	
TO RADIO	Confirming	Date	On
	No.	Mon	Day
No.	Hz	SWW	RSST
	MHz	SWW	RSST
Rig	W	Input	Hz
Ant	W	Input	Hz
Rmk	TXN	FB	QSO
Rmk	TXN	FB	QSO
04-DX Report Form No. 1400000			
POST CARD			

写真6. KC6KE及びV63KE 遠藤孝治氏のQSLカードの表と裏。

1994年(ミクロネシア V63KE)

JS6BLS 遠藤孝治氏は、ミクロネシアのヤップ島で、KH2Hの免許を基に取得したV63KEで運用し、HFのCWとSSBで約1,000局とQSOしたと、CQ誌編集部を通じてアンケートで寄せてくれた(写真6)。「KC6KEの運用を終え、V6のヤップ島からQRVすることができた。B727からヤップに降りたのは6人のみ、観光にメジャーなところではないようである。また石貨(ストーンマネー)、ダイビングの他にはあまり見るところはない。一般的にV6はポナペからのQRVが多い。最初3日間の予定であったが、台風のため6日間になり、そのためQSO数を伸ばすことができた。運用はパスウェイズホテル(1泊Twin \$85.00)から行った。(1995年3月記)

■ 1994 年 (東マレーシア 9M6/JS6BLS, 9M8MKS)

JS6BLS 遠藤孝治氏は、東マレーシアのコタキナバルで、9M6/JS6BSL で運用した時の事を、CQ 誌編集部を通じてアンケートで寄せてくれた (写真 7)。「免許の取得に関しては個人でやるのはかなり難しい。今回は 9M6HF から紹介された 9M6SU が協力してくれた。いづれにしても現地局に協力を頼んだ方がベターであると思われる。運用に関しては最初ホテルで DP を張ってやっていたが、9M6JM がうちに来て QRV せよと言ってくれ、3 日間ホームステイをして WPX-CW コンテストを中心に QRV できた。終了後 9M8 クチンへ QSY、ホリディ

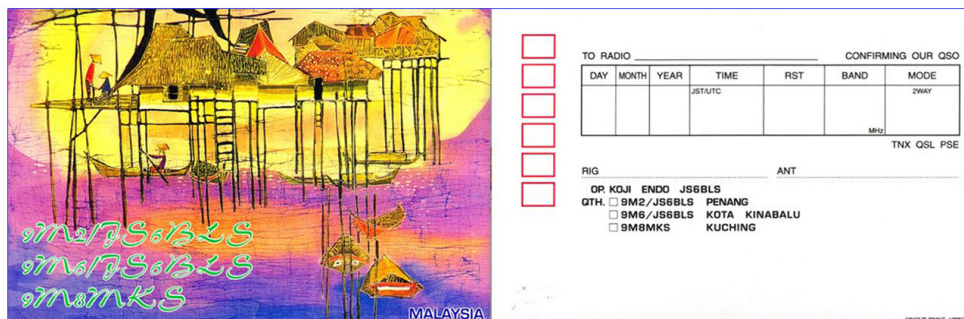


写真 7. 9M6/JS6BLS 遠藤孝治氏の QSL カードの表と裏。

インに 9M8MKS(サラワク クラブ)があり、ゲストオペで QRV、その後ペナンで 9M2FK のお宅からも QRV できた。(1995 年 3 月記)」

■ 1994 年 (クリスマス島 VK9IG)

JA3IG 葭谷祐治氏は、クリスマス島から VK9IG で、7MHz から 21MHz の SSB, CW を運用し、約 1,200 局と QSO したとアンケートを寄せてくれた。「インド洋に面し JA に開けたロケーションにあるクリスマスアイランドリゾート アンド カジノホテルで QRV。ここは食事もうまいし、カジノが 24 時間オープンしていて、ギャンブル好きなハムは QRV がおろそかになりそうです Hi。(1994 年 8 月記)」

■ 1994 年 (ココス・キーリング VK9IG/C)

JA3IG 葭谷祐治氏は、ココス島から VK9IG/C で、7MHz から 21MHz の SSB, CW を運用したとアンケートを寄せてくれた。「1994 年 9 月に出かけたこの島は、海拔 10 フィートの真っ平らな島で、どちら向きにもロケーションは FB です。宿泊ロッジが一軒あります。(1994 年 9 月記)」

■ 1994 年 (オーストラリア VK2IAZ)

故 JS1DLC 荒川謙一郎氏は、VK2IAZ の免許を得てアクティブに運用しておられたオーストラリアから、英国へ直接アンケートを送ってくれた (写真 8 ~ 10)。「プライベート屋上付きの 8 階建てアパートの 8 階に 1994 年 9 月に開設。当初 V 型ダイポールを屋上にあげたところ、高さもあり良く JA 他と QSO 出来たが、欲を出して垂直型の R5 へ変更したところ TVI が発生。共聴アンテナが同じく屋上にあり、水平型アンテナでは TVI は全くなく、いろいろ実験したところ TV アンテナマストでの 2 次輻射による I とと思われる。アパートの管理団体からクレームありアンテナを降ろされる。現在は見えないよう全長 3m の水平短縮型のダイポールで運用しているが、受信感度が悪く常に送りと受けのレポートに S4 前後の差がある。この他、同時にパケット局を開設、

～ 3 日 で QSO 出来ている。また、430MHz のリピーター (483.175MHz, Terry Hills) を在宅中は聞いており、友人の VK2FHY 見城さんとは常時これで連絡をとっている。(1994 年 11 月記)」



写真 8. (左)VK2IAZ 荒川謙一郎氏のシャックにて荒川氏と VK2FHY 見城氏。(右)アパートの屋上のアンテナと横に立つ VK2FHY 見城氏。

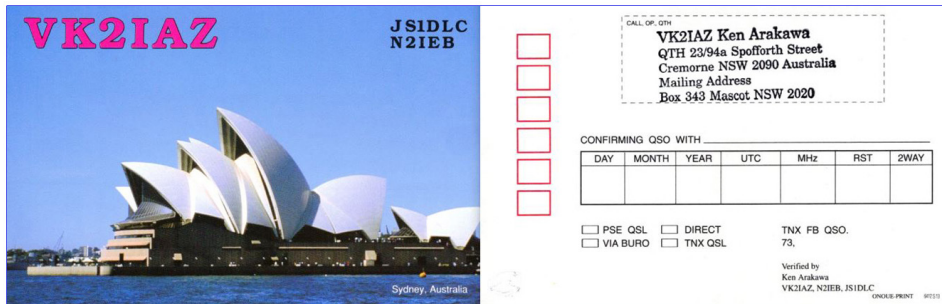


写真9. VK2IAZ 荒川謙一郎氏のQSLカードの表と裏。

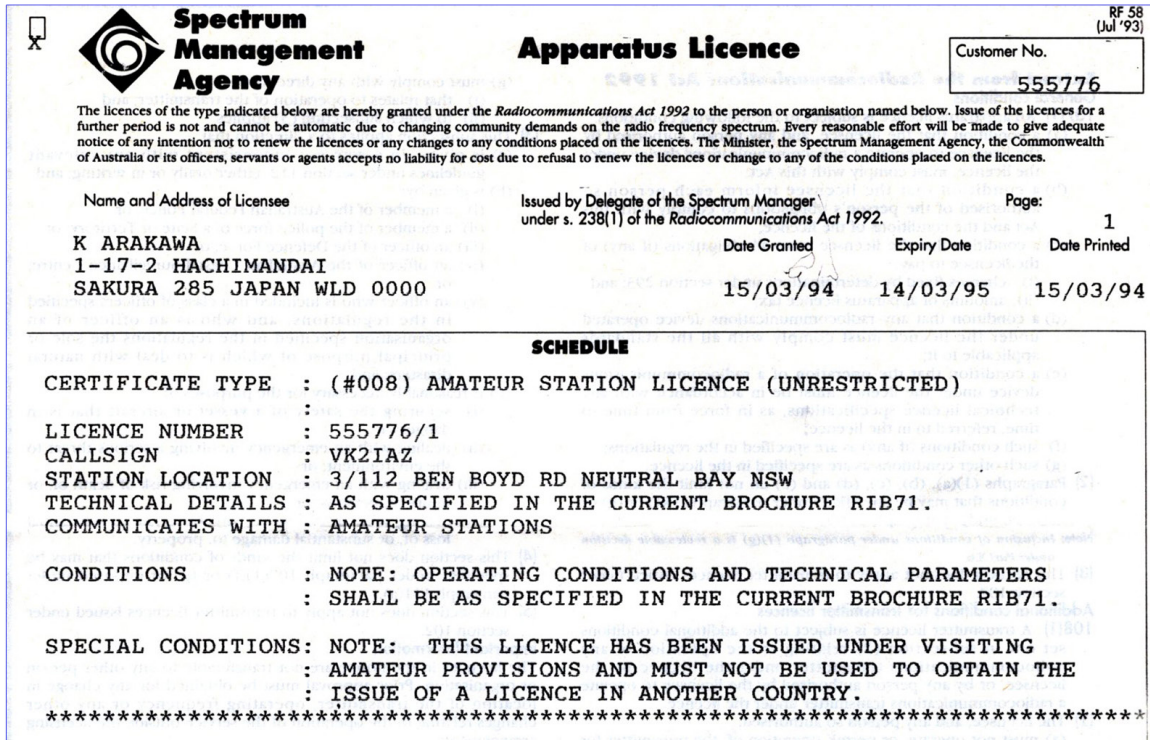


写真10. VK2IAZ 荒川謙一郎氏の免許状。

「あの人は今(第20回)」JA1DCY 神山堅志郎氏

世界各地で活躍され、今も JANET にチェックインするなどアクティブな JA1DCY 神山堅志郎氏の、ジュネーブの ITU 本部での運用は(その3)2013年6月号で、オランダでの運用については(その8)2013年11月号で、アフリカ・ナイジェリアでの運用については、(その9)2013年12月号で、そして南米・チリでの運用については(その13)2014年4月号でそれぞれ紹介させて頂きましたが、その神山氏からその他多くの国々のアマチュア無線家との交流を経験して、それが今につながっていると近況をお知らせ頂きましたのでここに紹介させて頂きます(写真11及び12)。「アマチュア無線通信という、遠距離(DX)通信および多数局との交信ということが真っ先に頭に浮かびますが、私にとっては、通信のつながりから発展した、ヒトとヒトとのつながりが貴重な無形財産となっています。「絆」これが私のハムライフそのもので、無線に興味を持って以来変わりません。技術面における進歩、達成感が自然に付いてくる感じです。1959年に6L6(ジャンクのメタル管10W出力)とテレビファイダーで作ったダイポールで、初めての電信の海外通信は感激そのものでした。比較的簡単な自作の設備でアメリカ西海岸まで届いた興奮は電信級の第一期生に合格したときと同様に、私には忘れられないできごとでした。そして7メガの電信で何度も交信を重ねた WA6IVM, Ray さんとは、その後家族も含めて40

年もの付き合いになりました。Rayさんも1959年がデビューの年です。その後紆余曲折がありましたが、米国駐在は1980年から8年間におよび、JANETクラブの方々にお世話になりました。ニュージャージー北部のBergen Countyクラブ(BARA)の野外活動にN2ATF小林さん、N2ATT荒川さんをはじめ、ニューヨーク在住のJANET Clubの方々に参加しました。4U1UNを泊りがけで訪問できたのもJANETのお陰です。この時には外国籍でもアマチュア無線の免許を受けられるようになっていましたので、N2JA塚本さん著作の教科書で勉強して、ニューヨークのFCC事務所での半日のうちに、ノビスからエキストラ級までの試験を受けて、KS2Uのコールを得ました。仕事の上でFCC長官と間接的なチャンネルがあり、免許制度など勉強になりました。仕事は光通信システムの販売でしたが、客先にはアマチュア無線を楽しんでいる人が多く、客幹部との打ち合わせ中に話が盛り上がることもあり、ビジネスとプライベートのつながりが強まりました。何人かの客先のハムとは現在でもインター

ネット経由で40年程つながっています。アマチュア無線を始めて60年余り、大勢の人々とお空だけでなく、家庭訪問でも会えて、しかも長い間関係が途切れないということは素晴らしいと思っています。



写真11. (左)WA6IVM, Rayさんを訪ねたJA1DCY, JH1FYL 神山堅志郎氏ご夫妻(1999年)。(右)JA1DCY 神山堅志郎氏の元同僚、NOOT, Sobonさんのご家族。右がお嬢さんのAD4PU, Lauraさん、左が妹のKE4RHU, Erinさん(2000年)。

家族4人が無線局免許を持って運用できるのに、運用時間は極めて少なく、折角10W機を用意しても、棚の飾りになっています。東日本大震災を栃木県内の急行電車の中で経験し、携帯電話はビジーで使えず、帰宅難民を経験したこともあり、長い間電波を使わせてもらっているので、社会貢献!と非常通信周波数を使えるように局免の変更をして、非常通信クラブに入会しましたが、訓練のみで活動の機会がないのは幸いです。令和の時代には移動電話のインフラもしっかりしてきたようです。他に高齢者大学の講師を2年、地域勉強会の講師、



Kamiyama Family Station, JAPAN: CG ZONE 25
ITU ZONE 45

JA1DCY/KS2U :Ken
JH1FYL :Kuniko
7K1HQA/N4MCQ :Yukiko
7K4ABC :Tetsuya

□ 829 Shimosakunobe, Ste. 503; Takatsu-ku □ 35 Hon-cho 6
 Kawasaki City, Kanagawa □ Kiryu City, Gumma
 GL:PM95TO JCC:1103 Postal:213-0033 GL:PM96QJ JCC:1603 Postal:376-0031

大学工学部の講師7年などで、少しは無線の経験をいかせたかな、と考える今日この頃です。(2020年6月記)」

写真12. (左)JA1DCYのシャックにて神山堅志郎氏。(右)JA1DCY 神山堅志郎氏のご家族の共用QSLカード。